

会 議 録

会 議 の 名 称	平成19年度第1回 小金井市地下水保全会議
事 務 局	環境部環境政策課環境係
開 催 日 時	平成19年8月27日(月) 午前10:00~11:25
開 催 場 所	市役所第二庁舎 301会議室
出 席 者	別紙のとおり
傍 聴 の 可 否	<input checked="" type="radio"/> 可 ・ <input type="radio"/> 一部不可 ・ <input type="radio"/> 不可
傍 聴 者 数	0名
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 前回の会議録の確認について(資料1) (2) 市立小金井市第二小学校運動場芝生化に伴う揚水施設の設置について(資料2) (2) ボーリング調査データについて(資料3) (3) 地下水(井戸)水位測定結果について(資料4) (4) その他 3 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 小金井市中間処理場事務所棟新築工事について(資料5) (2) 湧水量の調査方法について(資料6) 4 次回の地下水保全会議の日程について 5 その他
会 議 結 果	別紙のとおり
発言内容・発言者名 (主な発言要旨等)	別紙のとおり
提 出 資 料	資料は、情報公開コーナー、図書館、議会図書室にある議事録に添付してあります。
そ の 他	

平成19年度第1回 小金井市地下水保全会議議事録

日 時：平成19年8月27日（月）午前10：00～11：25
会 場：市役所第二庁舎 301会議室

■ 出席者

(委 員)	小倉 紀雄 会長	山田 啓一 副会長
	土屋 十圀 委員	風間 ふたば 委員
(事務局)	環境部 深澤部長	環境政策課 石原課長補佐
	環境係 鉄谷係長	環境係 立川主任
	環境係 萩副主査	環境係 吉崎副主査
	環境係 板本	
(説明員)	教育委員会学校教育部庶務課	北村課長
	教育委員会学校教育部庶務課施設係	若藤係長
(欠席者)	池田 茂 委員	
(傍聴者)	なし	

■ 会議次第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 前回の会議録の確認について（資料1）
 - (2) 市立小金井第二小学校運動場芝生化に伴う揚水施設の設置について（資料2）
 - (3) ボーリング調査データについて（資料3）
 - (4) 地下水（井戸）水位測定結果について（資料4）
 - (5) その他
- 3 報告事項
 - (1) 小金井市中間処理場事務所棟新築工事について（資料5）
 - (2) 湧水量の調査方法について（資料6）
- 4 次回の地下水保全会議の日程について
- 5 その他

■ 審議経過（議事録）

1 開会

小 倉 会 長： 平成19年度第1回的小金井市地下水保全会議を始めさせていただきます。
まずは事務局の方からお願いします。

深 澤 部 長： 本日はお忙しいなかお集まりいただき、ありがとうございます。今年度最初の会議となりますので、事務局の紹介をさせていただきます。
事務局の紹介を行った。

小 倉 会 長： ありがとうございます。

それでは、議題に入りたいと思います。

2 議題

(1) 前回の会議録の確認について

小倉会長： まず、前回の会議録の確認ということですが、事前にメールで配布されていましたが修正等がありますか。ないようでしたら承認ということにしたいと思います。

(2) 市立小金井第二小学校運動場芝生化に伴う揚水施設の設置について

小倉会長： では、(2)の議題で資料2になりますが、事務局から説明をお願いします。

深澤部長： はい。まず小金井市では、環境問題に係る審議会として、この地下水保全会議と環境審議会があります。今後、市で環境に関係する事業を行うときに、地下水に係るものについては地下水保全会議に、環境全般に係るものについては環境審議会に諮らせていただき、進めていきたいと思っています。

そのひとつとして、前回の会議で、中間処理場での地中熱を利用した冷暖房設備の設置についての審議をしていただきました。結果につきましては、後ほどの報告事項で資料が出ていますが、地下水保全会議でのご意見をいただきましたので、事業者との調整を含め、市で検討しまして中間処理場での地中熱の利用はやめました。事業者からの話として、100メートル掘ったとしても水圧等の関係があるので、上部の地下水が下に流れ込むことは無いだろうという意見もありましたが、こちらの会議で場所的に問題があるという意見もありましたので、今回の中間処理場での設置はやめるということです。今後、他の場所で設置できる場所があれば、そちらで活用していきたいと思っています。

小倉会長： はい、わかりました。

深澤部長： 今回の、市立小金井第二小学校運動場芝生化に伴う揚水施設の設置ということも地下水に係わることで、ご意見をいただきたく、議題として提示させていただきました。

こちらは、東京都が10年間で都内の公立小中学校2,000校を芝生化していきたいという事業です。今回市内では補助金を使って、第二小学校の運動場を全面芝生化するということで、散水が必要になります。そこで、地下水を利用していきたく、地下水の有効活用を図っていこうと考えています。本日は教育委員会から庶務課長の北村が出席していますので、詳細の説明をさせていただきます。

北村課長： 小金井市教育委員会庶務課長の北村です。本日はお時間をいただきありがとうございます。それでは事業の概要を説明させていただきます。

資料2に基づき、概要の説明を行った。

小倉会長： ありがとうございます。

何か質問はありますか。

土屋委員： これの目的ですが、資料にも効果がいくつか書いてあり、付随的におこる効果もありますが、東京都の教育庁が補助事業としてやっているねらいというか、本来の主たる目的は何でしょうか。

北 村 課 長： 東京都では、主たる目的はヒートアイランド対策であるとしています。それと、効果として東京都のガイダンスのとおり資料に書いてありますが、怪我の抑制や動植物の生息、気温の低減などはその効果が報告されています。あとは、児童たちの心理・情操面の効果ということで、外で遊ぶのが楽しいと感じる子供や、外で遊ぶ子供が増えたといった事例もあり、そのような情操面での効果を期待しています。

深 澤 部 長： これは、東京都の環境局のほうの補助になりますので、地球温暖化対策で緑を増やすということで都内の公立小中学校を全部やるとしています。

土 屋 委 員： 目的は大体わかりました。

もうひとつですが、芝生化することによってメリット、デメリットの両方があるということですね。たとえば、芝生化すると透水性が確保される可能性が高いです。つるつるの地面よりも何十倍と違うでしょう。しかし、100メートルの深さから、1平方メートルあたり5ミリリットルの揚水をするというのは、かなり大きい量ですね。要するに降雨による浸透の量より揚水の量が多くなり、浸透と揚水のバランスの問題が心配です。そのバランスがとれるように検討することが必要だと思います。

山 田 副会長： 似たようなことですが、地下水の有効利用という点で、地下水を汲み上げてやるとするならば、全体としてどういう負荷になるのかという評価をしておいたほうがいいのではないかと思います。つまり、最初は第二小学校でやるということですが、全校で同じようにやるとすると、概ねどういうバランスになるのかという評価をしておいたほうがいいということですね。これは小金井だけの問題ではないですが、そのへんはどうなのでしょう。地下水を有効利用していいという根拠はどこにあるのかを、東京都からはどのように聞いているのでしょうか。

北 村 課 長： 今までの実施校で井戸水を使っている例はないようです。井戸水を使ってどうなのかということの東京都とのすりあわせはとくにありません。環境局からの指導等もありません。

土 屋 委 員： 資料の最後のところに東京都の条件がありますが、これに合えばよいということですね。

深 澤 部 長： 今のご意見のとおり、市内全校の散水用に地下水を使うというのは問題があるということは、担当のほうに申しました。先ほどのお話のように、芝生化自体にメリット、デメリットがあり賛否もあります。今回、第二小学校の運動場の全面をやるとのことですが、この学校は、隣に中学校と市のグラウンドがあり、芝生を植えた後の2～3ヶ月、その上にのれない間の代替場所があります。残りの8校については、周りにこのような施設がありませんので、全面芝生化ということが難しくなります。ですから部分的にやる、半面だけやるということになりますと、散水用の水も水道水でまかなうということもあります。今回は大きな場所ということで、水道水に頼るといってもありますが、地下水の有効活用を図っていきたくと考えています。

それから、東京都の環境確保条例からいうと、深井戸で一定の口径、揚水量

であれば、環境政策課を通して東京都に届出をして、毎年、揚水報告をするということになります。

今回は、市内の湧水口とも離れているので、地下水の有効活用を図っていく場所にはいいのではないかと考えています。

山田 副会長： もうひとつお聞きしたいのですが、災害時の非常用水にするということですが、市民の水を確保するなかでは、どの程度位置付けるでしょうか。

深澤 部長： 市内には防災井戸が60数か所ありますが、そのうちのひとつとして考えます。

山田 副会長： 確認ですが、最大で、月平均一日あたり10トンくらいですか。

深澤 部長： はい、最大でそのくらいと聞いています。ただ、さきほどの揚水量と浸透のバランスということで考えれば、限度というより抑えて使うということだと思います。

土屋 委員： 結局、このあたりは年間に1400～1500ミリの雨が降りますが、そのうちの4割から5割は蒸発しますので、芝生が育つためにはそれ以上、水をかけてあげなくてはけません。つまり、揚水量と雨と浸透のバランスを考えて検討しなくてはいけないと思います。芝生は維持管理を常にしなくてはなりませんし、育つためには肥料などもまくのでしょうか。そのへんの問題もありますね。

深澤 部長： そうですね、杉並区の芝生化した学校に視察に行きましたが、かなり散水も必要で、日々の維持管理が大変だと聞いています。今回実施するにあたっては、全部浸透させるという方向でやっていますので、確かにバランスということを考えなければならないと思います。

風間 委員： このあたりでこれくらいの量の水をとっても、周辺の井戸には影響がないという確認はされているのですか。

深澤 部長： そこまでの確認はとれていません。資料に、近くの水道水源の地層図をつけてありますが、250メートルの深井戸ですので、地層が違うかなと思います。近くには50メートルクラスの井戸は見当たらないです。

風間 委員： 揚水量の確保ができるという見込みはあるということですか。

深澤 部長： ボーリング調査をして、確実に安定した水量を確保する場所で汲み上げるということになります。

小倉 会長： 近くに、今やっている観測井戸はあるのですか。浅井戸で深さは違いますが、多少、関連性が出てくると思いますので。モニタリングをするといいですね。

深澤 部長： はい、ここの井戸も、できれば観測ができるようにしたいと思います。

小倉 会長： そうですね。どうせなら、水位が測れるようなものにするといいですね。

石原 課長補佐： 現在、一番近い井戸は、資料4の最終ページを見ますと、8番になります。あとは5番が近いです。

深澤 部長： 事業計画自体が、今年度は設計となっていますので、測定ができるような形にしてもらえるように申し合わせたいと思います。

小倉 会長： 全体として、エコスクール化が推進されていて、ヒートアイランド対策として有効であるということですが、地下水の面からは、多少懸念があるという意見があったということでしょうか。

深澤部長： 長期的な観測と、揚水量についても最大限汲み上げるといよりも、抑えながら利用するという形で説明したいと思います。

土屋委員： 基本は雨の量ですから、雨の量を超えるような、収支をこえるような揚水をする、かえって維持管理がおかしくなりますから。

小倉会長： 作った方がいいが、芝生の維持管理がずいぶん大変だと聞いていますが。

深澤部長： 今回の補助金は10分の10の補助なのですが、維持管理に関して、市民と連携した維持管理を行うということだと10分の10、行政のみで維持管理をするなら10分の5になります。今回はPTAなどのボランティア組織を立ち上げて、維持管理をしていくということで10分の10ということになっています。

山田副会長： 補助金というのは、維持管理についての補助金ですか。

深澤部長： 維持管理の補助金というのは無いです。ただ、維持管理に必要な機器類などは当初の補助金の中に入ってきます。

土屋委員： ついでの話ですが、長野の農協でやっているのですが、過剰に水をやらないようにするためのセンサーがあって、地中の水分量が自動で量れるようになっています。水分量によって、作物に合った量の水が自動でスプリンクラーによって撒かれます。そのいう装置もありますので、検討したらいいと思います。

深澤部長： 杉並の学校では、毎朝散水をするらしいのですが、雨が降ると散水をしないというようなタイマーのようなものを使っているようです。

北村課長： 今のお話で、雨水を感知するものは採用する予定ですが、土屋先生のおっしゃったものは存じませんでした。補助事業なので、東京都がそれをどう判断するかというのがありますが、勉強させていただきたいと思います。

土屋委員： ぜひ、ご検討いただければと思います。

小倉会長： 小金井はせっかくこのような地下水保全会議をつくって、地下水を大切にしていますので、余分な地下水を使わずに、しかも、芝生化を促進するといったシステムを考えていただくというような、色々な意見が出たということによろしいでしょうか。

深澤部長： ありがとうございます。

風間委員： まとめたところですみません。

小学校であれば環境学習のほうにも上手に使えると思いますので、ぜひ活用いただけたらいいなと思いました。

小倉会長： そうですね。PTAのボランティアだけではなく、環境学習そのものとして、草刈りをしたり、水撒きしたりすることも必要ですね。そういうプログラムを作ってしまうといいですね。

北村課長： はい、学校等と一緒に工夫して、どのように使えるか、さらに勉強していきたいと思います。

小倉会長： はい、色々な貴重な意見をありがとうございました。その意見を十分反映させて、よりよい小金井方式のエコスクール化ということを進めていただければと思います。

北村課長： はい、ありがとうございました。

(3) ボーリング調査データについて

小倉 会長： 次にいきたいと思います。
資料3について説明をお願いします。

石原 課長補佐： 資料3に基づき説明を行った。

小倉 会長： ありがとうございます。

深澤 部長： データということなので、何かお気づきの点があれば、お願いしたいと思います。

土屋 委員： 1件目の農工大連携型インキュベータというのは、どんな事をやられているのですか。

石原 課長補佐： これは、研究施設ということですが、大学自体ではなく、この施主が施行する事業だということです。大学の施設ではなく、独自の研究施設だと聞いています。

土屋 委員： 再開発事業でやるのですか。

石原 課長補佐： いいえ、そうではありません。

土屋 委員： わかりました。

小倉 会長： 1件目は少し深くて12～13メートルくらいの杭ですが、2件目、3件目は直接基礎で杭は無いということですね。
どうでしょうか、何かありますか。

土屋 委員： 2件目は貫井神社の北側になりますね。よくわからないのですが、地下水路よりも杭の位置は深いのでしょうか。

石原 課長補佐： 基礎杭で5メートルということなので、地下水への影響は少ないのでは、という判断なのですが。

土屋 委員： これを見ると地下水は11メートルのところにあるようですね。

山田 副会長： その水位はいつ測ったのですか。

石原 課長補佐： 19年6月に調査しています。

山田 副会長： 一番低い時ですね。

深澤 部長： このあたりでは、地下水位は11メートルくらいでしょうか。高いのですか。

土屋 委員： このあたりは高いのではないですか。

立川 主任： 資料4の井戸の番号では、11番が一番近いところで、マイナス12メートルくらいです。
それから、このあたりは、連雀通りを境に南側は水を浸透させてはいけない地域、反対側では積極的に浸透させましょうという地域で、微妙な場所になっているのですが、ぜひ、浸透させてくださいというお願いはしています。

山田 副会長： そうですね、浸透させていいのではないのでしょうか。

土屋 委員： 湧水は、さらにその上の地下水の影響を全部うけてきているから、崖線に近いほど直接的な影響は少ないのではないのでしょうか。

立川 主任： 貫井神社などは、浸透した水が以外と早く出てくる場所なのではないかと思えますが。

山田 副会長： 下まで行くかどうかはべつとして、ここはたぶん集まると思いますよ。

土屋 委員： 構造物は、杭の位置はN値で決めようとするし、地下水の事とは関係なく地盤の強さですからね。

立川主任： 3件目もそうですが、基礎杭というか、長い杭を入れなくてそっくりこのまま5メートルで固めて、その上に乗せるという構造らしく、だから地下水には影響ないということです。降った雨については浸透させてもらうということです。

小倉会長： 箱がそっくり入ってしまう形なので、その部分に降った雨は浸透しないので、浸透ますで入れてほしいという話ですね。

立川主任： はい、そうです。

小倉会長： もう1件も、直接基礎で杭無しですね。こちらのほうも浸透するようにするというのでお願いしたいと思います。

1件目がどうでしょうか、少し深いようですが。

土屋委員： これは、農工大のキャンパス内ですか。

立川主任： そうですね。栗山公園の隣になります。

土屋委員： これは構造物が書いてありませんね。

石原課長補佐： こちらは地上3階建てらしいですが、研究施設なので高さが14メートルくらいで、普通のマンションでいうと4～5階建てくらいの高さです。

土屋委員： 地下には杭とか基礎杭はあるのですか。

石原課長補佐： 特にないようですが。

小倉会長： 杭を何本うつかとかは書いてないのでしょうか。

石原課長補佐： 杭工についての提出もお願いしたのですが、提出されませんでした。

小倉会長： そうですか。

土屋委員： ボーリングデータの柱状図のところに杭先端と書いてありますが、これがそうでしょうか。

小倉会長： そうですね。12～13メートルくらいですね。

土屋委員： こちらのほうは意外と地下水脈が高いのではないですか。低地の部分です。

山田副会長： おそらく2～3メートルでしょう。

土屋委員： だから、さらに杭は深いところに、地下水位の相当下になりますね。

立川主任： この時に測ったものは14～15メートルとなっていますが、この近くの井戸で測ったものでは、13メートルくらいの場所です。

小倉会長： 時季にもよりますが、それより上でとどまっているということですね。

これは、何本くらい入るのか聞いていただいて、本当に平常の水位が14メートルくらいなら、その上ですから直接影響はないのかもしれないですが、水位が高くなれば、影響が考えられますので。

立川主任： 時季によって2～3メートルくらいはすぐ変わるのですか。

土屋委員： そうですね。変わります。

立川主任： 一度だけ観測されたのですが、その後は観測できていないところがあるのですが、一度下がってまた上がってくるということもあるのですね。

土屋委員： はい。季節変動はありますね。

山田副会長： 季節変動というか、立川段丘のほうは夏になくなるのですね。

土屋委員： 季節変動が激しくて、涸れてしまう場合があるのですね。

山田 副会長： ですから、それは無いということを決めていただければいいと思います。

立川 主任： はい、わかりました。

小倉 会長： これは小金井の連携型のインキュベータですので、きちんとやってほしいということを申し入れていただければいいと思います。

規制の権限がないので、意見をもとに市のほうでご判断いただければと思います。

(4) 地下水（井戸）水位測定結果について

小倉 会長： それでは次にはいります。

資料4になりますが、何かございますか。

土屋 委員： 前回の時に2月までのデータがありましたが、あれとつなげて、水位とつなげた形にさせていただくと長期的に見られるのでいいと思いますが。年間の変動などもありますので、そのほうが見やすいですね。地点ごとに時系列的になっているといいです。あわせて降水量も月別にいれておくとわかりやすいですね。そのようなデータの工夫をしていただければと思います。

立川 主任： はい、わかりました。

山田 副会長： それにあわせて、今後どのようにストックするかとか、公表するかとか、市民にはどういう形が一番わかりやすいのか、なども工夫したらいいかと思いますが。

立川 主任： はい。

山田 副会長： 月別はこちらにでていますね。

立川 主任： はい。昨年10月からやっていますので、あと2ヶ月で1年がつながるところです。

山田 副会長： そうしたら10月からスタートにしたほうがいいですね。

立川 主任： 環境市民会議のほうでつくっているものは、そのようになっていまして、第二庁舎の玄関のところに毎月のデータを貼り出しています。

土屋 委員： これは、将来印刷物などで公表するのですか。

深澤 部長： 環境報告書のほうに入れていくようにしたいと思っています。

土屋 委員： 資料の確認ですが、縦軸の0メートルというのはある地点の地盤の高さのことですか。井戸の高さでしょうか。どのように見ればいいですか。

深澤 部長： 前回、ご指摘がありましたのでTPで合わせました。

土屋 委員： TPですか。

山田 副会長： これは水面の高さですね。

土屋 委員： 基準点から水面がマイナス何メートルかということですね。

立川 主任： はい、そうです。

小倉 会長： これは市民のかたが頑張っているんですね。

立川 主任： はい。毎月やっています。井戸も増やしていきたいと思っているのですが、なかなか観測できる井戸がありません。

土屋 委員： 工夫していただいて、降水量なども入れていただくと見やすいですね。

立川 主任： はい。本庁舎で測っているものを入れてみます。

小倉会長：これは、継続していくと色々なデータが取れると思います。一生懸命頑張っていたので、いずれ解析するとか、今は市民レベルでも学会がありますので、そこで発表して頑張っていることのPRをすることもいいと思います。よろしくお願いします。

(5) その他

小倉会長：次に、その他ということですが、何かありますか。

石原 課長補佐：特にありません。

3 報告事項

(1) 小金井市中間処理場事務所棟新築工事について

小倉会長：それでは次にはいます。
事務局からお願いします。

深澤部長：はい。先ほどもお話ししましたが、地中熱利用の冷暖房設備はやめまして、資料にありますように、夜間電力を利用する氷蓄熱型冷暖房設備を取り入れることとしました。今回は中間処理施設の事務所棟だけの新築工事ですが、ここは環境フィールドという形で、太陽光発電や小規模な風力発電、雨水貯留タンクの設置など、環境の分野に配慮した事業をやっているということです。

できあがりしましたら、ぜひ地下水保全会議の皆さんにもご覧いただけたらと思います。

土屋委員：そうですね。完成はいつ頃ですか。

深澤部長：今年度中には完成の予定です。

小倉会長：では、工事は始まっているのですか。

深澤部長：はい。

土屋委員：風力発電されるのですか。

深澤部長：小さいもので、屋外灯用です。まかないきれないと思いますので、ソーラーパネルもつけたりします。

小倉会長：では、完成しましたら見せていただきたいと思います。

(2) 湧水量の調査方法について

小倉会長：では次ですが、事務局からお願いします。

石原 課長補佐：担当のほうから説明します。

立川主任：昨年の環境講座でお話が出ていましたが、湧水量も量ろうということで、来月から地下水測定メンバーで湧水量を量ろうということになりました。

調査方法としては、資料6の写真にあるように、バケツで3秒間汲み上げて重さを量って量を出すという方法と、三角堰を使うという二つの方法で量ってみようということになっています。場所としては、東京経済大学の新次郎池から出ている湧水と、滄浪泉園、美術の森、民間宅の4ヶ所です。

山田 副会長：貫井神社は量らないのですか。

立川主任：調査に行ってみました、足場がなく危ないということでやめました。それ

で、新次郎池のほうを量ることにしました。

土屋委員：新次郎池は水が出ているのですか。

立川主任：先日行ったときには出ていました。

土屋委員：ずっと出ていなかったようですが。

立川主任：そうですね。ここはだめだろうといいながら行ってみたら、かなり出ていましたので量ってみようということになりました。

土屋委員：そうですね。7～8年は出ていなかったのではないのでしょうか。

深澤部長：このところ出ているということですね。

山田副会長：あの、せっかくですからできたら貫井神社もチャレンジしたらいいと思いますが。

小倉会長：そうですね。どこかいいところでもあればいいですね。

土屋委員：はけの森美術館のところは東京都がやっていますね。あれは、言えばやらせてくれると思いますよ。三角堰もきちんとおいてありますから。

山田副会長：そこはやる予定だと思いますが。

立川主任：はい。

山田副会長：あとはT邸のところですね。

深澤部長：三角堰をつける方向で調整しています。

山田副会長：市の予算でやるのですか。

深澤部長：以前の会議でご意見がありましたように、都市再生機構のほうにも相談しようと思います。

山田副会長：そうですね。では、できたらぜひ貫井神社のほうもお願いしたいと思います。

小倉会長：そうですね。貫井神社も量的には多いですよ。

このように湧水量を量るというのは大事ですし、いいことですね。

土屋委員：水質は測らないのですか。水質までは大変ですね。

深澤部長：順番に、段々というところでしょうか

立川主任：温度を計ろうかというはなしもありましたが。

深澤部長：今後、環境市民会議とも連携しながら、すこしずつレベルを上げていきたいと思っています。

小倉会長：そうですね。ずっと続けていけばいいデータもとれると思いますし、楽しみです。よろしくお願いしたいと思います。

深澤部長：はい。

小倉会長：それでは、報告事項は以上でしょうか。

何かありますか。

土屋委員：ひとついいですか。

今、JRの線路が1本高架になって、だいぶ変わりましたが、工事に伴って、線路の水など雨水の処理はどうするのか、というようなことをお聞きしたことがなかったのですが、JRと小金井市はその雨水に関することは何かやっているのですか。

深澤部長：担当のほうでやっています。高架に降った雨をそのまま地下に流すと、鉄分などの成分があるから等々の話は聞いていますが、浸透はさせています。

土屋委員： この会議には、資料というかそのような立体化に伴って雨水をどうするといった話は無いのでしょうか。

深澤部長： そうですね。この会議が出来る前から事業が始まって、今ここで現場が見えてきている状況ですから、扱いとしてどうなっているのかということですね。条例施行の前から始まった事業ですが、どのように処理をしているのか確認します。雨水を浸透させるのは原則になっていますので。

土屋委員： ぜひ、そのあたりの情報があればお願いしたいと思います。

深澤部長： わかりました。

4 次回の地下水保全会議の日程について

小倉会長： それでは、次回の日程ですがどうでしょうか。

深澤部長： はい。次回は11月の上旬から下旬頃で調整させていただきたいと思います。それと、この会議も11月で2年になります。引き続き委員の継続をお願いし、手続きをとらせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

小倉会長： はい、わかりました。

深澤部長： よろしく申し上げます。

小倉会長： それでは次回は11月の開催ということにしたいと思います。本日はありがとうございました。